

福島県立視覚支援学校・福島県立聴覚支援学校福島校

【発行所】

福島県立視覚支援学校・
福島県立聴覚支援学校福島校
後援会

〒960-8002 福島市森合町6番34号

TEL 024-534-2574

FAX 024-533-2470

E-mail fukushima-sb@fcs.ed.jp

後援会会報

第11号

「こどもの笑顔輝く未来へのご支援に感謝して」



福島県立視覚支援学校・聴覚支援学校福島校 後援会長 西山 尚利

日頃より、会員皆様には本会の活動に深いご理解と温かいご支援を賜り、心から感謝申し上げます。おかげ様で今年度も、視覚支援学校・聴覚支援学校福島校で学ぶ幼児・児童・生徒が自分の目標に向かい学習・体育活動に励み、生活全般にわたり充実した時間を過ごすことが出来たことに厚く御礼申し上げます。

さて、視覚支援学校は今年度創立120周年を迎え、10月26日（土）に記念式典が盛大に開催されました。これまでの皆様のご支援に、心より感謝申し上げます。先人の歩みを振り返りつつ、自分たちの今を見つめた発表の「しゃくなげ祭」や豊山太鼓『千響』の記念演奏は児童生徒主体の記念行事となりました。また、聴覚支援学校では福島第四小学校との合同学習発表会は、「勇気・友情・協力・感謝」をテーマに自分たちで脚本を考え演じていました。幼稚部は、福島保育所との交流保育発表会に参加し、オペレッタやダンスを発表しました。地域の同世代の子どもたちとの充実した交流から未来への希望を強く感じました。

これからも、子どもが学校や地域・社会で共に学び、共に生きる教育を推進するという理念のもと、明るく逞しく自立できるよう成長することを願いながら活動を続けてまいります。引き続き、総合的な特別支援教育を推進する学校教育の充実発展のため、後援会活動に対しましても一層のご支援・ご協力をお願い申しあげまして、ご挨拶といたします。

「ご支援ありがとうございました」



福島県立視覚支援学校長・聴覚支援学校福島校分校長 須田 康仁

後援会会員の皆様には、日頃から、視覚支援学校及び聴覚支援学校福島校分校の教育活動へのご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございました。今年度も、皆様のご支援により、様々な活動を展開することができました。

聴覚支援学校福島校では、交流行事が印象的でした。運動会では視覚支援学校の児童と一緒にたくさんの種目に出場し、また、学習発表会では友情や協力を題材とした劇「助け合った友だち」を、小学部全員が一所懸命演じてくれました。観客の皆さんから、とても大きな拍手をいただきました。幼稚部生も、遠足や本校との交流会などの行事に積極的に参加し、たくさんの素敵な笑顔を見せてくれました。

一方視覚支援学校では、今年度大きな行事が目白押しでした。「第87回全国盲学校弁論大会全国大会」が本校主管で開催され、9名の全国代表弁士が自らの想いを伝えてくれました。また、「創立120周年記念式典」が教育委員や同窓会長などのご出席により、盛大に行われました。たくさんの方々のご尽力で今の視覚支援学校があることを実感する機会となりました。これらを含めた行事運営にあたり、後援会から多くのご支援をいただいたことで、スムーズな運営が可能となりました。

結びに、校庭では昨年5月より聴覚支援学校福島校の校舎建設が開始され、本年6月下旬には新校舎が落成し、9月には聴覚障がい配慮され学習環境の整った新校舎で学習できそうです。今後ご理解とご協力をお願いいたしまして、活動報告と御礼のごあいさつといたします。



教育活動報告



会員の皆様よりいただいた会費は、視覚支援学校・聴覚支援学校福島校の教育活動の中で、有効に使わせていただいております。ここでは、多くの補助を受けて実施された教育活動の中から、学校行事での幼児、児童生徒の様子を紹介いたします。

小学部 「清明小学校との交流」

11月27日(火)清明小学校の3年生35名が来校しました。「視覚支援学校小学部の生活や学習の様子を知りたい」ということで、障がい理解啓発授業を行ったり、小学部児童とゲームを通して交流したりしました。啓発授業では、学習の様子をDVDで見たり、点字等の教科書、補助具や支援機器を見たり触ったりして体験してもらいました。やり方や使う道具が違って学習内容は自分たちと同じだということに驚く児童が多くいました。また、小学部児童との交流で行ったフラフープ送りゲームでは、アイマスクを付けた清明小児童がうまくフラフープをくぐれないのを見て、本校の児童が「大丈夫だよ。」と励ましたり、清明小児童が本校の全盲の児童にどうすればうまく指示が伝わるか考えて具体的な言葉かけをしたりする様子が見られ、互いを思いやりながら楽しい時間を過ごすことができました。(小学部副主事 高橋和代)



中学部 「全国弁論大会」

10月5日(金)に本校主管で『第87回全国盲学校弁論大会全国大会』が開催され、中学部は全日程に参加しました。本校高等部普通科の遠藤さん、本校専攻科理療科の佐藤さんをはじめ全国の弁士一人ひとりの思いがそれぞれの言葉でストレートに語られました。生徒からは「東北大会では各校代表の弁論もすごいと思ったが、全国大会はもっと表現力がすごかった。」「秀州さんや他の地区の人の発表が上手だった。僕もやってみたいと思った。」といった感想が聞かれました。

自分の思いを自分の言葉で表現し、相手に伝えることは中学部の生徒たちにとっても大切なことです。この大会に参加したことをきっかけに、自信を持って自己表現をし相手の心を震わす弁士が、ここ福島県から誕生することを期待したいと思います。(中学部主事 渡部経子)



高等部普通科「しゃくなげ祭」では精一杯学習成果を発表しました！

普通科では、「総合的な学習の時間」に、それぞれの興味関心に応じた課題学習に取り組み、その成果を発表しました。2組グループはステージ上で、いろいろな楽器の演奏を聴いた活動について紹介し、楽しく太鼓の演奏をしました。1組の生徒はそれぞれ、「人間の活動で絶滅しかかっている日本のコウモリ類」「メキシコの文化・経験を糧に」「Change the World ~ マララの想い」という調べた内容の発表、「天栄山黄金太鼓」の迫力ある演奏をステージにて披露しました。プレイルームでは、「臓器移植」「日本のアニメ文化」について調べたことを掲示物にまとめて発表しました。「いろいろな音を聞いてみよう」「天栄村紹介」「絶滅しかかっているコウモリ類」についても展示しました。(高等部普通科長 中野美佐枝)



高等部理療科 「臨床体験発表会」

平成30年12月20日(木)に理療科の臨床体験発表会が開催されました。

午前の部では、専攻科3年生の症例研究は例年になく多岐にわたり、卒後の臨床への意欲がうかがえ、また専攻科2年生の実験研究は鍼刺激と自律神経の変化という学術的にも興味深い研究で、討議や意見交換も活発になされ、理療科生徒の臨床への意識の高さを感じました。

午後は外部の理療の専門家を招いての講演が行われました。今回は郡山市で鍼灸接骨院を開業している傍ら、国体などでスポーツトレーナーとしてもご活躍されている小林光幸先生をお招きし、実技中心のご講演をいただきました。スポーツの現場では不可欠でありながら、学校の授業では扱う機会がほとんどないテーピングの方法をご指導いただき、生徒たちも足首を固定するテーピングの方法に悪戦苦闘しながら取り組んでいたのが印象的でした。午前の部、午後の部とも例年になく充実した「臨床体験発表会」でした。

(高等部理療科長 小沢薫)



午前の部：生徒発表



午後の部：臨床後援・実技講習

聴覚支援学校福島校 幼稚部・小学部 「秋の遠足」

9月13日(木)に「秋の遠足」で東北サファリパークに行ってきました。サファリツアーでは、ライオンの迫力に驚きの声をあげたり、エサやり体験では、間近に迫ってくる象やキリンにドキドキワクワクしながらエサをあげたりなど、動物との触れあいを楽しんでいました。また、午後は、アシカや猿、フラミンゴのショーを見ました。動物たちの動きを見て、大きな声で笑ったり、拍手をしたりと、ショーの楽しさを感じることができました。動物たちと直接触れ合うことができた大満足の日となりました。

(聴覚支援学校福島校教頭 小川令子)



創立120周年記念式典終える！

去る10月27日(土)に福島県教育委員会委員の蜂須賀禮子様をお迎えし、創立120周年記念式典が開催されました。本校の発展に寄与された方々を代表して元校長の安藤俊典様に感謝状が贈られました。生徒代表として生徒会長の遠藤未来さんが本校への想いと感謝の気持ちを述べました。



平成30年度 会費等の御協力をいただいた方々及び団体 (敬称略)



今年度も、在籍している幼児児童生徒の保護者の皆様にご協力をいただきました。ここには、ご協力いただいた旧職員の皆様及び特別会員の皆様のみ記載させていただきますので、ご了承ください。

保原町工業団地懇話会
守工業株式会社
社会福祉法人あおぞら福祉会 菊の里
有限会社大野建築設計事務所
株式会社トヨネスト
株式会社三宅新聞店
福島テレビ株式会社

赤沼 宏子
阿部 教夫
阿部 稔也
安藤 俊典
五十嵐 登美
五十嵐 好恵
石川 浩
伊藤 信也
井沼 直美
海野 薫
江口 和子

小野 祥一郎
小野 誠子
小野 貴則
菅野 美恵子
菅野 典子
櫛田 省吾
熊田 千恵
栗村 美智子
齋藤 和也
齋藤 洋之
齋藤 裕子
齋藤 浩之
佐藤 健一
佐藤 知子
佐藤 浩士
佐藤 正雄
嶋原 弥
須田 博行
竹中 洋子
丹野 功一
中村 雅彦
七宮 弘暁
西山 尚利
西間木 薫
二瓶 恵美子
二瓶 睦
芳賀 孝美
原 江理歌
原田 道久
廣畑 紀夫
古川 洋子
星 富美子
本田 富治
武藤 永治
村上 卓
望木 昌彦
柳内 泰二
八巻 静子
八巻 宏子
山岸 芳和

会津若松市
飯舘村
いわき市
岩瀬郡天栄村
国見町
郡山市
白河市
須賀川市
相馬市
西白河郡西郷村
東白川郡鮫川村
福島市
南相馬市

トピックス

❖伊達市保原町工業団地懇話会様から今年度も多大なる会費の贈呈を受けました。



視覚支援学校中学・高等部球技部が全国フロアバレーボール福岡大会に東北地区代表として出場しました。惜しくも予選敗退でしたが、次年度の岩手大会に向け頑張っています。



編集後記

日頃より本後援会にご理解とご支援をいただき、感謝しております。本紙面を通して幼児児童生徒の様子と本会の事業内容についてご理解いただければ幸いです。これからも本会活動充実に向けて努力して参りますので、今後ともご支援をよろしくお願いいたします。